

# 板に描かれた珍しい仏さま

狐井の福応寺には珍しい木板に描かれた仏像があります。市内を南北に貫く狐井街道と東西に走る堺街道が交差する場所から少し東へいった所にある福応寺は静けさに包まれた寺院です。境内にはソテツや楓などが植えられて、古びた本堂のたたずまいと枯れたような調和を見せています。

福応寺は浄土宗のお寺で、恵心僧都の創建と伝えられています。板に描かれた本尊の阿弥陀三尊座像も恵心僧都の作といわれ、それには次のような伝説が残されています。

良福寺から狐井へと流れるツガワという小川がありました。昔、あるおばあさんがこの川で洗濯をしていると、板に描かれた仏さまが流れて来ました。それは池の井手板の裏に描かれていました。有り難いことだ、もったいないことだと、おばあさんはそれを拾い上

げてドヤマに祭りしました。その後、福応寺に祭られたといっています。

また、福応寺の縁起では、恵心僧都が當麻寺へお帰りになるとき、おばあさんが拾った

ます。

現在でも七月九日には、板仏としてゆかた姿の人々がお参りし、寺では法要が営まれています。本堂の前にはたくさんのお線香が供えられ、ろうそくのあかりも幽玄に、夏祭りの風情が漂う行事となっています。

ちなみに、昔からこの日には必ず雨が降ったといひ続けられてきました。それは稲作に大事な雨水をもたらす人々の願いがかなえられたからかも知れません。それだけ水を大切に思い、また雨が降ることを祈っていたことを思わせます。

いずれにせよ、川を流れてきた板仏が水に縁のあるのは、それだけ人々に大切にされたからでしょう。珍しい姿の阿弥陀さまが描かれた板仏にふさわしい信仰のようです。



板仏に色をつけたとされています。おばあさんが拾った日が七月九日だったので、その日は法要が営まれるようになったといわれています。

シリーズ・まちの文化財

第三回

「福応寺の板仏」